

10月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

イエスがたたく希望の扉をひらいていこう 新たにつながるために 2030年に向けて一歩ずつ



「この方はどなたですか？」
の額が掛かっています。先日

「一番前の列、正面左にアルペ神父様(※編注①)の「お顔」

の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

「一番前の列、正面左にアルペ神父様(※編注①)の「お顔」

の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

聖イグナチオと私

アルペホール

援助修道会 Sr.景山あき子

私たちの聖イグナチオ教会には「ホール」と呼ばれている大きな部屋が3つあります。①テレシアホール ②ヨセフホール ③アルペホールで、①と②は1階に、③は3階(301号室)です。1階の①と②はよく使わせていただきますが、③のアルペホールはあまり使用しないかもしれません。でも、中学生会、高校生会は毎週日曜日(※編注②)ここで集まりをしています。かなり大きいので時々真中の扉を閉めて二つのグループでも使えるホールです。

「一番前の列、正面左にアルペ神父様(※編注①)の「お顔」の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

「一番前の列、正面左にアルペ神父様(※編注①)の「お顔」の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

「一番前の列、正面左にアルペ神父様(※編注①)の「お顔」の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

「一番前の列、正面左にアルペ神父様(※編注①)の「お顔」の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

「一番前の列、正面左にアルペ神父様(※編注①)の「お顔」の額が掛かっています。先日「この方はどなたですか？」

と若い方に聞かれ、土曜学校の生徒達に話したように簡単に説明(紹介)しました。

私が広島で修練者だった頃、アルペ神父様は度々、修練院に来てお話をしてくださいました。もう70年位前です。数年後に神父様は東京に戻られ、「ここ聖イグナチオ教会のごミサでお話をしてくださった」こと、また「ルーメル神父様(※編注②)のピアノとラサール神父様(※編注③)のバイオリンと一緒に美しいお声で聖歌をたくさん歌ってくださいました」と信者の方が広島にいた私に知らせてくださった。

時間が少し戻りますが、アルペ神父様は広島にいらした時、第2次世界大戦中とその直後だったので、原子爆弾ですっかり焼け野原になった広島島の街で、倒れていた人々や家を失ってしまった人々を助け、郊外にあつ

た長束の修道院に運び、聖堂に寝かせて介抱なさったことを一緒に働いていた私たちの修道会のシスターたちから聞いています。

1945年8月15日に戦争は終わり、1950年にローマのイエズス会総長はアルペ神父様を日本のミッシヨンの長上に任命なさったため、アルペ神父様は広島を離れて東京に行き、1958年日本管区長になられました。多くのことをなさいました。東京湾の近くに「イエズス会日本語学校」(※編注④)を創立し、宣教師と全世界から来た若いイエズス会士たちがここで日本語を学ぶことになりました。

1964年にローマでイエズス会総長が亡くなり、新しい総長としてアルペ神父様(※編注⑤)が選ばれました。聖イグナチオから数えてイエズス会の28番目の総長です。その後、アルペ神父様は1962年から1965年まで行われた第2バチカン公会議の時、教皇の片腕として大きい力となって働かれました。

総長として世界のあちこちに行かれていましたが、1981年8月7日フィリ

ピンから帰る長い旅行のあと、飛行機がローマ空港に着いたとたんに脳血栓で倒れ、その後長い闘病生活を送り、1991年2月5日、

長崎の26聖人殉教者の記念日に天国に帰られました。

現在、アルペ神父様の列聖のため、カトリック教会の大勢の人々が祈っています。このような簡単な話をアルペ神父様のお顔の前で私は質問なさった方に話しました。アルペ神父様の列聖の日を心から待ち望みながら。

教会報 MAGIS 10月号

† 教会学校 夏キャンプ・夏イベント	P2~3
† 「イグナチオ年」閉幕 ・イエズス会管区長記念講演とミサ ・記念国際青年ミサ	P4~5 P5
† オンライン講座 『イエスのたとえ話』配信スタート	P6
† 訃報 ホアン・カトレット神父	P7

※編注① 神奈川県横須賀市田浦

※編注② クラウス・ルーメル神父(1916年9月28日~2011年3月1日)

※編注③ フーゴ・ラサール神父(1898年11月11日~1990年7月7日、帰化名は愛宮真備(えのみまきび)1948年)

※編注④ ペドロ・アルペ神父(1907年11月14日~1991年2月5日)

※編注⑤ アルペ神父(1907年11月14日~1991年2月5日)

【10月の共同祈願】

ロザリオの月にあたり、
マリア様と心を合わせて祈ります。
戦争・紛争地域で苦しんでいる人々に、
いやしと平和をどうぞお与えください。

担当：受け皿

【ミッション2030 -前文-】

私たち聖イグナチオ教会は、
祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。
現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、
環境破壊など、未来に希望を見出しにくい
反福音的なものに脅かされています。
それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、
いつくしみの扉を開いていきます。
私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、
貧しい人や弱い人の声を聴き、
皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、老いも若きも)、
福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

教会学校

いつもの夏が少しづつ戻ってきた！

教会学校の夏キャンプ・夏イベント

夏休み前の新型コロナウイルス感染症の急激な拡大に伴い、今年も夏キャンプは規模を縮小したり、予定の変更を余儀なくされました。そんな中、2つの教会学校は3年ぶりに夏キャンプへ、やむなく中止した教会学校もイベントを企画し、それぞれの夏を謳歌することができました。各リーダーからの報告をご紹介します。



土曜学校

キャンプで非日常を体験！

土曜学校では8月20日から22日にかけて、2泊3日で夏のキャンプを行いました。新型コロナウイルスの影響でこ



こ数年は実施できず、リーダー共々悔しい思いをしておりましたが、3年ぶりになんとか形にすることができ、大きな意義を感じております。キャンプの中では、花火や竹細工での水鉄砲づくり等非日常的な体験、共同生活を通して仲間と助け合う事の大切さを伝えました。

コロナによって日頃よりたくさんの制約と共に生活をしている子どもたちにとって、日常の生活では出会えないような体験が多く、通常の活動では聞こえないような笑い声やとびっきりの笑顔がありました。この状況下ですがキャンプの実施を決め本当によかったと思っております。

2学期の活動は9月10日(土)より始まります。運動会や遠足等楽しいイベントを用意しておりますので、たくさんのご参加をお待ちしております。

(代表)

日曜学校

歌声響いた夏キャンプ

日曜学校では、昨年秋季からクリスマス会やクラス毎の遠足などの行事を復活させております。先日行った3年ぶりとなる夏キャンプでは、20名の子どもたちが雙葉山荘に集いました。不安定な気候が続きましたが、レインコートを着用しつ



つキャンプファイヤー、花火、山荘の周りを探索するイベントなどを行い、全員無事に帰宅いたしました。

テーマである「にじいろのたね」は現リーダーが子ども頃に歌っていた歌を復活させたものです。神さまの元を集えたことを感謝しつつ、声を合わせて歌う「ぼくらは日曜学校〜!」には感慨深いものがあり、改めてキャンプを実施できたことへの喜びをかみしめました。実施にあたり、ご協力、お祈りしてくださった皆様、本当にありがとうございました。(リーダー)

中学生会

夏の教会で青春のーピースを

中学生会は感染再拡大を受けて、今年も夏キャンプの実施を見送り、代わりに教会で2日間の夏イベントを行いました。1日目はミサと分かち合いを行い、「青春と個性」について考えました。2日目はTシャツで染め物作り、有志の発表、花火など、キャンプで行う予定だった企画を行いました。直前まで中学生と一緒に

キャンプの準備を進めていただけに、中止は非常に残念でしたが、参加した中学生にとつてこの夏イベントが今しかない「青春」の思い出になっていくくれたら嬉しい限りです。2学期は錬成会、3学期は巡礼とまだまだたくさん残っています。2022年度後半も、多くの中学生と楽しい活動を行っていくことができますように。

(リーダー)



高校生会 やってみたいことを全力で!

高校生会では8月21、22日に教会で夏イベントを開催しました。事前に高校生と何をやりたいかを話し合

い、「やってみたい!」という願いを詰め込むだけ詰め込んだ、まさに高校生会による夏イベントになったかなと思います。

1日目では横断幕制作と水遊び、2日目には分かち合い、有志発表会、花火を行いました。横断幕制作では各々のイメージカラーをみんなで作ったり、有志発表会では発表している子を拍手や声援で盛り上げたり、みんなが「一つひとつを「楽しもう!」という気持ちでたくさん盛り上げてくれました。

今年にはキャンプという形で夏のイベントを開催することが断念する形にはなりませんが、限られた環境の中で



「やりたいことをやる」、「全力で楽しむ」という気持ちをもって行うことができ、夏の一つの思い出として心に残すことは出来たかなと思います。(リーダー)

侍者会

7月に新侍者の祝福式

侍者会は8月に3年ぶりの夏キャンプを予定していましたが、やむなく中止となりました。ご支援いただいた皆様、ありがとうございます。9月以降の2学期に、夏キャンプで行うはずだった授業を再検討して開催予定です。

7月の子どもとともにささげるミサでは、新侍者の子どもたちが侍者になるた



めの祝福を受けました。4月から約3ヶ月間、毎週侍者になるための練習を重ねてきました。8月はミサ回数削減の対策がとられていましたが、その中でも3人の新侍者がはじめての奉仕に参加することができました。



カブトムシ△2022夏▽

小さな一歩を大切に、カブトムシで難民支援

カブトムシの飼育は2011年の東日本大震災の被災地支援を山口ではじめてから12世代目。今は岐部ホールの地下で飼育。今年の喜びは、昨年お譲りしたつがいから卵が生まれ、教会学校のお友だちが成虫になるまで一年大事に育て、



▲8つがいの成虫をわけてくれた教会学校の親子

た。他の新侍者の子どもたちも9月にはじめての奉仕を迎えます。小3から高3まで、これからもみんなが助け合いながら奉仕を続けてくれることを願っています。(代表)

私のところに連れてきてくれたことです。「次のお友だちのためにカブトを分けてあげたい」「難民のお友だちを助けたい」素敵な「命の分かち合い」。お父さんと一緒に、またご夫婦で育てたカブトも合わさってもらわれていきました。

映画『シンドララーのラスト』の終わりに「一つの生命を救う者が世界を救える」「もっと救い出せた」「努力すればもう一人救えたのに、しなかった」というやりとりがあります。カブトムシは小さなことですが今年の献金も20万円になり、難民支援協会に送金しました。ご協力に感謝。飼育マットの寄付も募集しています。(柴田潔神父)

イグナチオ年閉幕記念講演とミサ

「イグナチオ年」を振り返って
―聖イグナチオ教会の担う役割―

7月30日(土)14時半より、主聖堂で「イグナチオ年」閉幕記念講演会が行われました。講師はイエズス会日本管区長レンゾ・デ・ルカ神父。事前申込みの約150名とオンライン視聴者と共に、画像と配布資料を用いて二部構成で実施されました。以下はその要旨です。(YouTubeにて現在も動画配信)

〈第一部〉
歴史から学ぶ

キリシタン時代は現代と同様に神父が不足していました。ですから、子どもたちは劇で、琵琶法師は琵琶の弾き語りで宣教活動を助けていました。

また、細川ガラシャは、



神父からではなく信徒から受洗しましたが、26聖人と共に殉教する覚悟までしていました。高山右近はマニラに追放され、後に殉教者扱いになりましたが、共に京都にいた縁者の婦人たちは修道会に入って教会共同体を作り、臨終洗礼も行いました。私たちもコロナ禍でミサに行けなくても、家庭を小さな教会にする呼びかけができると思います。

それ以前の天正少年使節は、日本の信徒代表としてローマに赴き、教皇グレゴリウス13世に謁見。外交的役割を果たしました。またキリシタン大名たちが教皇に手紙を送ったのと同様に、一般信徒たちもイエズス会の総長宛に書状で、共同体の設立を願い出しました。当

時の信者たちが活発に動いていたことがわかります。

徳川時代中期の「キリシタン禁制高札」には、訴え出た者に莫大な報奨金を与えると記され、一人ひとりの信者の影響の大きさが、迫害する側の資料からもよくわかります。時代は下り、26聖人の列聖式(1862年)で世界中の人々が日本の教会を認め、その100年後に「日本二十六聖人記念館」と「聖フィリッポ西坂教会」が献堂され、1981年に教皇ヨハネ・パウロ2世が来日して、現地で彼らの殉教をたたえました。

〈第一部〉
イグナチオ年をいかして
聖イグナチオ教会の役割

教皇フランシスコは著書『天と地の上で』のなかで、

宗教的つながりとして共同体の基本「小教区」を取り上げています。聖イグナチオ教会のように大きな教会でも、常に「小教区」すなわち教会やグループに属している自覚を持つことが必要です。また教皇は日本の潜伏キリシタンたちの信仰の伝え方(聖職者不在でも

400年間洗礼をつなげられたこと)を世界の模範としました。

もう一つ、『イグナチオと共に歩む』(翻訳未出版)で現イエズス会総長のアルトゥーロ・ソーサは、「『自分さえよければ』という世の中に対し、『相手のことを考える』ことが、真にイエスが伝えた隣人愛です」と訴えかけています。また同じ本のなかでイエズス会使徒職全体の方向づけ(UAPS)にも触れ、「①イグナチオの霊性②若者③貧しい人々④環境を、生活や宣教に採り入れ、関わりを持つべきである」と述べています。これは聖イグナチオ教会の「ミッション2030」とも共通し、「歴史から学んでそれをいかす」という今日の講演の主題につながり、以下が重要な点です。

①祈りを深める
コロナ禍でもできる範囲で、また大きな教会の特性をいかし配信でミサや講演会を行うなど、創造性を養う。

②福音を伝える

一人ひとりの生き方や行動が福音宣教となる。また

何年か後に伝えた福音が残るので、私たちの日々の小さな行い一つひとつが重要。

③共同体を生きる

できるだけ活動グループに関わり、それを教会の一部、また自分のアイデンティティーとして受け止める。

④新しい「協働」

今まで以上に自分たちができることを探して、神父に頼らず自主的に動く。

〈まとめ〉

最後にレンゾ神父は、今後の聖イグナチオ教会が担う役割を強調されました。

「キリシタン時代は、失敗を恐れず、地元文化を取り入れながら、自立すること、400年間キリスト教を保ちました。対して聖イグナチオ教会の特徴は、『メガチャーチ』で影響力が大きく、国際性とパワーがあるので、それらを将来に、そして四谷の地の利もいかにすることが重要です。加えてさまざまな工夫をして受け入れ体制をつくり、貧しい人との距離を縮めるために一人ひとりが意識して関わり、今まで以上に信徒中心にならなくてはなりません。



私たちもコロナという目に見えないウイルスだけで世界中が混乱する経験を通して、『私たちの負けです』

管区長としては、一人ひとりが、減少著しい神父を独占しないように工夫し、グループで率先して動くようにお願いしています。イグナチオ年を通していただいた恵みに感謝しつつ、今後にかたして下さいます。

続いてミサの説教で聖書朗読(エレミヤ書20:7-9、ルカ14:25-33)を受け、「戦争で負傷したイグナチオは、世間的な名誉や権力がどれほどはかないかに気づき、『あなたの勝ちです』と謙虚に認め、神に従う生き方に変りました。

と言わざるをえない状況になり、人間の進歩や発達がいかにはかないものか、気づかされました。イグナチオにならない、この体験が祈りになればよいと思います。

またルカ福音書の『自分が持っている物をすべて捨ててついてきなさい』とは、神が与えてくださった恵みを私たちがどれほど受け入れているかの問いかけです。

イグナチオ年を終えるにあたり、神さまの前で、これからも回心の道を歩むように願いたいと思います」と締めくくられました。

ミサの後、首席オルガニストの浅井寛子さんから、23年前、主聖堂献堂と同時に設置されたパイプオルガンが、オーバーホールに入る経緯の説明があり、軍事侵攻に苦しむウクライナの平和を願って現地で有名な曲「鐘のキャロル」が演奏されました。パイプオルガンの支援を希望される方は、教会事務室・主聖堂前室に設置の専用封筒を利用いただくか、振込用紙に「パイプオルガン」と明記してお振込ください。

イグナチオ年閉幕記念国際ミサ

祈りの中でイグナチオ年閉幕

4青年会による国際ミサ行われる

当教会の守護聖人である聖イグナチオ・デ・ロヨラが、パンブローナで負傷・回心してから500年を記念した「イグナチオ年」。その締めくくりとなる「インターナショナル・イグナチオアンユースデー」を7月30日(土)・31日(日)に迎えました。

◆徹夜祭・聖体賛美式

一日目である7月30日、19時30分より徹夜祭・聖体賛美式が主聖堂で開催され、YouTubeでもライブ配信されました。

聖体礼拝は聖イグナチオの精神に基づく大切な祈り方とされています。イエスさまのご聖体をずっと見つめながら、その癒しと慰めをいただけるひと時を、聖堂を超えて多くの人々と共有しました。

◆国際青年ミサ

二日目の31日、15時30分より主聖堂で国際青年ミサが執り行われました。日本語・英語圏・インドネシア語・ベトナム語の青年会が企画し、合同で開催されました。主司式はイエズス会

日本管区長のレンゾ神父、合同司式はニャー、キエサ、フィルマンシャ、小暮、酒井、柴田、山中、山内各神父でした。

このミサもライブ配信され、その後の視聴回数は1400を超えました(9月7日現在)。

説教でレンゾ神父は、「このミサをもって私たちはイグナチオ年を終わります。誰もがこの閉年の日には、教会をいっぱいにして盛大にお祝いできるだろうと思っていました。最後まで控え目に祈ることになりました。気持ちとしてはとても残念ですが、この控え目な祝い方こそ印になるような気がします。

イグナチオは自身を巡礼者と呼んでいましたが、外面的なものではなく、むしろ心の旅をしたのであり、霊操などを通して他の人にも勧めました。巡礼では住み慣れた場所を離れて、予測できない世界に出会う体験をします。私たちがコロナ禍を強いられました。慣れた信仰生活から離れて、それまで体験したことがないような祈りと関わり方に導かれました。私たちは知らないうちに巡礼者となっていたと言えるでしょう。この体験を災いではなく、恵みとして受け入れられるように祈りましょう」と呼びかけました。

その後、共同祈願も各国語で行われて閉祭。1年2カ月あまりに渡るイグナチオ年は幕を閉じました。【おしらせ】7月31日に予定されていた「シノダリティー・ミーティングおよび青年の集い」は、10月9日(日)17時45分〜19時15分に延期となりました。



聖イグナチオ教会 オンライン講座 『イエスのたとえ話』10月から配信スタート!

▶ YouTube 配信
はこちらから



「The Prodigal Son」
Sir John Everett Millais, 1864,
The Met Collection

10月から、新たにオンライン講座

『イエスのたとえ話』の配信がスタートします。

講座は、2023年7月までの月2回(全20回)、

下記の予定表のとおりYouTube上で順次公開されます。

開講にあたり、ハビエル・ガラルダ神父様にメッセージをいただきました。

意味を生き方に当てはめて 直後には黙想を

協力司祭 ハビエル・ガラルダ

福音のたとえ話は、簡単に言えば、教えを分かりやすくするためにイエスが語った短いフィクションです。実話でない場面のナレーションです。

イエスは動作のない比喻も使いました。「世の光」とか、「命のパン」、「道」、「狭い戸口」などはたとえ話ではなく、比喻になります。純粹なたとえ話の数は42個とされていますが、この講座ではランダムな順番で、その中の20個を扱います。

「神の国のたとえ話」と言われますが、この世の神の国の定義は「主の祈り」に含まれています。「御心が地にも行われる」という状態です。「愛し合いな

い」という「御心」に従って、愛し合っている人々が、神と一緒に「宴会」の雰囲気を実行に移している状態です。「神の国のたとえ話」は、その「神の国」の有様やその中の生き方を表す例です。

講座では、それぞれのたとえ話の前後関係を確認し、ナレーションの意味を追求してみます。そして、その意味を私たちの生き方に当てはめてみます。要するに、頭で「なるほど、この意味でしたか」と理解するばかりでなく、「耳が痛い、よし、やってみましょう!」という前向きな反省も心から引き出そうとしています。

このオンライン講座は、対面講座と同じような真剣さで受けるほうが望ましいと思います。途中でスマートフォンを使ったり、人と喋ったりしないで、福音書を手元に置いて、ノートを取って、直後に簡単な黙想をする姿勢が有意義なのではないかと思えます。

聖イグナチオ教会オンライン講座「イエスのたとえ話」-テーマ・担当者・公開日程予定表

※各講座の講話時間は30分程度です

講座番号	イエスのたとえ話	担当司祭・シスター	YouTube 上での公開予定日と時間
	オンライン講座の紹介	ハビエル・ガラルダ 神父	(2022年) 10月 7日 (金) 17:00
1	迷い出た羊	柴田 潔 神父	10月 7日 (金) 17:00
2	二人の息子	サトルニノ・オチョア 神父	10月 21日 (金) 17:00
3	ぶどう園と農夫	マヌエル・シルゴ 神父	11月 4日 (金) 17:00
4	畑に隠してある宝	Sr. 野本 佳子	11月 18日 (金) 17:00
5	羊と山羊を分ける	レンゾ・デ・ルカ 神父	12月 2日 (金) 17:00
6	からし種とパン種	酒井 陽介 神父	12月 16日 (金) 17:00
7	愚かな金持ち	Sr. 品川 ヨシ子	(2023年) 1月 6日 (金) 17:00
8	タラントン	グエン・タン・ニャー 神父	1月 20日 (金) 17:00
9	種を撒く人	Sr. 杉原 法子	2月 3日 (金) 17:00
10	新しいぶどう酒と古い皮袋	ハビエル・ガラルダ 神父	2月 17日 (金) 17:00
11	魚を集める網	酒井 陽介 神父	3月 3日 (金) 17:00
12	真夜中に訪ねて来る友人	Sr. 野本 佳子	3月 17日 (金) 17:00
13	良いサマリヤ人	レンゾ・デ・ルカ 神父	4月 7日 (金) 17:00
14	ぶどう園の労働者	ビセンテ・ポネット 神父	4月 21日 (金) 17:00
15	毒麦	Sr. 杉原 法子	5月 5日 (金) 17:00
16	仲間を赦さない家来	ヘネロソ・フローレス 神父	5月 19日 (金) 17:00
17	実のならないいちじくの木	Sr. 品川 ヨシ子	6月 2日 (金) 17:00
18	金を借りた二人の人	マヌエル・シルゴ 神父	6月 16日 (金) 17:00
19	放蕩息子	ハビエル・ガラルダ 神父	7月 7日 (金) 17:00
20	目を覚ましている僕	サトルニノ・オチョア 神父	7月 21日 (金) 17:00



Family of St. Ignatius

～ベトナム語共同体から～

裾野でのベトナム人青年の集い

関東地方の約450人のベトナムの若者のための2日間(7月16日から18日)のプログラムを、ニュー神父と聖イグナチオ教会を拠点とする120名のベトナム人の若者たちの企画・運営で、静岡県裾野市にある不二聖心の黙想の家のグラウンドで開催しました。

テーマは「愛と信仰のうちに共に歩む」。教皇のシノドス

への呼びかけに応えるための取り組みです。荘厳な行列で始まり、ニュー神父司式のミサ後、若者たちがダンスや歌、グループ活動などを進行。夜の聖体賛美式では、沈黙の時間を通して、より主に近づくことができました。翌日は、「シノドス」「愛と結婚生活」「カトリック青年としての生き方」「妊娠とそれにまつわること」の4つのテーマで発表と分かち合いをしました。

雨とコロナが心配でしたが、皆さまのお祈りのお陰で神様は2日間素晴らしい天気を恵んでくださり、特に問題もなく、今回の集まりは神様からの祝福のしるしでした。

●9月の宣教司牧評議会からのお知らせ●

(9月1日開催)

1. 承認事項

- ・ミッション2030を推進する新組織の正式名称が「ミッション2030プロジェクトチーム」として、正式に承認されました。

2. 報告事項

- ① 上記の「ミッション2030プロジェクトチーム」は、初心に立ち返り、信徒の皆様はこの活動を広く知っていただくための企画を検討中です。

- ② 教会祭準備の途中経過報告です。

※以下は後日の実行委員会の決定を含みます。

2022年度 教会祭 10月9日(日)

テーマ「つながるために」

- ▶ インターナショナルミサ(インドネシア語・英語・スペイン語・日本語・ベトナム語) 主聖堂にて11時開祭。定員200名の予定。

当日の日本語ミサは、7時、18時です。

- ▶ 交流イベントは、「主聖堂献堂から未来へ”パイプオルガンとともに”」を主聖堂にて14時から、定員200名で開催予定。プログラムは、お話「オルガンへの思い」(主任司祭とオルガニスト浅井寛子氏)とオルガン演奏。「オルガンと唱(うた)う」(聖歌隊、5カ国の青年による聖歌)など。

※ミサとイベントの申込みは別になります。申込みや教会祭の最新情報はホームページでご確認ください。当日はYouTube配信があります。

- ③ 9月18日(日)敬老ミサと10月22日(土)長寿の集いが中止になったため、オチョア主任司祭のお言葉が書かれた「お祝いのカード」を対象の方に送付します。その他にも、高齢の信徒の皆様をサポートする対策を考えていきます。
- ④ 10月1日(土)に予定していた教会大掃除は中止し、「小さなお掃除会」を随時開催します。
- ⑤ 10月29日(土)典礼勉強会は、典礼奉仕者対象の勉強会となる予定です。

●映画鑑賞会●

甦った幻の映画「日本二十六聖人」

～日本キリスト教会の礎をふりかえって！～

日時：10月23日(日) ヨセフホール

1回目 10時～12時、2回目 14時～16時

推薦&上映解説：レンゾ・デ・ルカ神父

皆様、是非ご鑑賞ください。詳細はポスターをご覧ください。

「小さな福音映画会」

聖イグナチオ教会所属信徒グループ

●財務報告●

8月7日(日)、14日(日)『平和旬間2022「ミャンマーの人々のため」特別献金』合計671,598円は、東京教区ミャンマー委員会を通じてミャンマーの教会へ届けられます。

●イエズス会司祭叙階式●

9月17日(土)、新型コロナウイルス感染症対策で非公開でしたが、ライブ配信され、越智直樹助祭、グエン・ミン・トアン助祭が司祭に叙階されました。

皆さま、お二人のこれからのご活躍をお祈りください。

●カレーの会から●

7月号でお願いしたお米の寄付について、沢山のご寄付をいただきどうもありがとうございました。スタッフ一同心より感謝御礼申し上げます。現在、十分な量となりましたので、またの機会にご寄付をよろしくお願いたします。

訃報 (R.I.P.) ホアン・カトレット神父

8月1日(月)聖母病院にて帰天されました。85歳。葬儀は8月5日(金)、聖イグナチオ教会で新型コロナウイルス対策により非公開(オンライン配信)で執り行われました。

カトレット神父様は晩年東京に来られてから、聖イグナチオ教会で告解等霊的指導をされました。

略歴

1937年1月2日	スペイン、バレンシアで生まれる
1954年9月7日	イエズス会入会(スペイン、サラゴサ)
1962年8月27日	来日
1969年3月15日	司祭叙階(東京)
1970年～2016年	このうち24年間、修練長補佐
1971年～1974年	グレゴリアン大学で神学研究(神学博士)
1974年～1979年	六甲教会助任(神戸)
1979年～2007年	エリザベト音楽大学で教える(名誉教授)
1992年～1998年	長束修練院長(広島)
1998年～2007年	麹町修道院(広島)
2000年～2006年	麹町修道院長
2007年～2012年	祇園教会助任(広島)
2016年～2018年	イエズス会神学院で司牧活動(東京)
2019年～2021年	上石神井修道院で司牧活動
2021年7月～	ロヨラハウス(東京)
2022年8月1日	帰天(聖母病院、東京)



10月の典礼と行事

1 (土)	教会大掃除 9:00(中止) 教勢調査 18:00 ミサ
2 (日) 年間第27主日	教勢調査 日本語ミサと外国語ミサ
7 (金) 初金曜日	
9 (日) 年間第28主日	教会祭(インターナショナルミサ 11:00、交流イベント 14:00)、青年の集い 17:45～19:45
12 (水)	傾聴ルーム 13:00～15:00 ヨセフホール
16 (日) 年間第29主日	日曜サロン 11:00～12:30 ヨセフホール
22 (土)	長寿の集い(中止)
23 (日) 年間第30主日	幼児洗礼式(第2回) 10:00 ミサ 世界宣教の日・献金
26 (水)	傾聴ルーム 13:00～15:00 ヨセフホール
29 (土)	典礼勉強会(新しいミサの式文の勉強会で対象は典礼奉仕者)
30 (日) 年間第31主日	結婚感謝ミサ 10:00 日曜サロン、ミニオリエンテーション 11:00～12:30 ヨセフホール

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

● 9月のお知らせ(8月27日要旨) ●

新型コロナウイルス感染症第7波がまだ続いています。司祭団にも感染者が出ましたが、幸い軽症で済みました。感染者数の減少傾向が見えない状況ですが、以下のように9月から感染症対策を変更します。

1. 主日ミサは9月10日(土)18時から通常時間に戻します。予約方法は従来通り、入堂人数は150人です。
2. 平日の7時、12時、18時のグループ申込ミサ、聖体賛美式の中止を継続します。平日ミサ再開は、今後の状況で判断します。
3. 高齢者、基礎疾患のある方のためのミサについて9月3日(土)12時は中止、10月以降は今後の状況で判断します。
4. 告解は9月3日(土)から再開。場所は信徒会館3階307室です。

結婚・転入紹介は都合により次号となります。

主任司祭：サトルニノ・オチョア

助任司祭：ボニー・ジェームス

グエン・タン・ニャー

柴田 潔

協力司祭：ヘネロソ・フローレス

ハビエル・ガラルダ

マヌエル・シルゴ

シスター：イベッテ・サンチェス

(セントロ・ロヨラ)

フロール・フロレーセ

(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサ時間 Mass

【平日 Weekday】

7:00 (聖体顕示) 主聖堂 Main Chapel

12:00/18:00 (ミサ又は聖体顕示、聖堂は要確認)

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel

土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00

12:00 (English) /13:30 (Español) /

15:00 (Việt Nam) /16:30 (English)

【月の第1日曜日 1st Sunday】

Our Lady's Chapel

12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】

Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083

千代田区麹町6-5-1

TEL 03-3263-4584

FAX 03-3263-4585

<http://www.ignatius.gr.jp>



ホームページ



フェイスブック